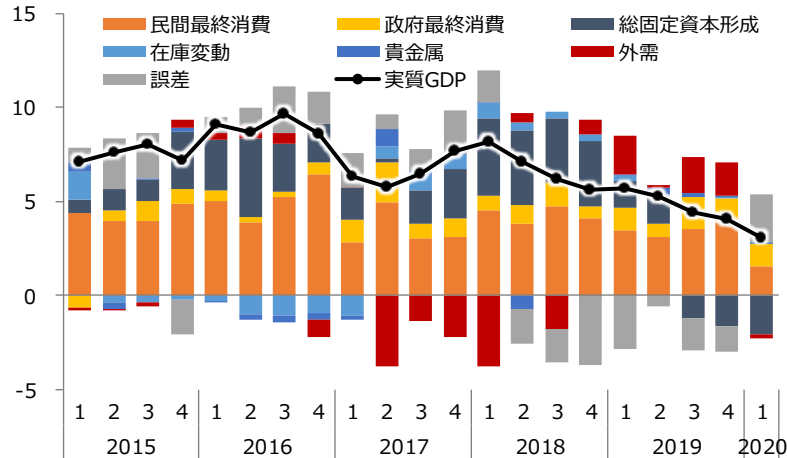


## インド

GDP (2020年1-3月期)  
世界金融危機時以来の低成長政策・経済研究センター  
橋本拓摩  
03-6858-2717

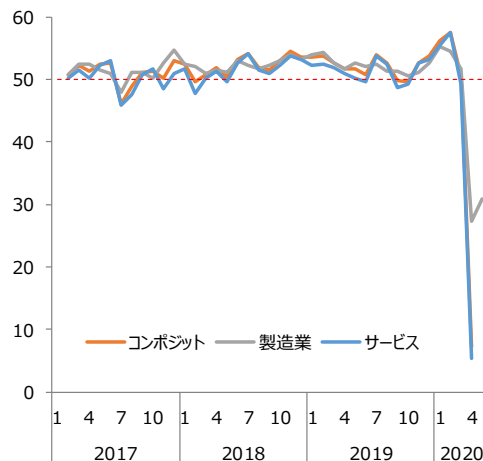
## 1 実質GDP成長率と需要項目別内訳

(前年比、%)

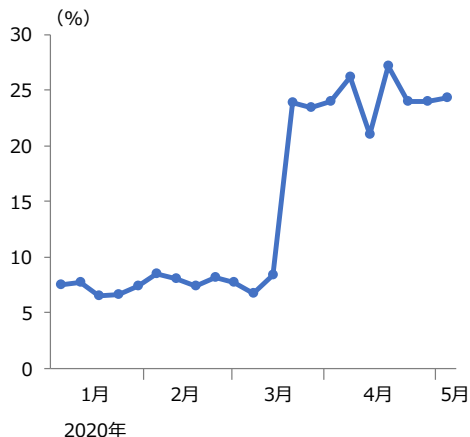


出所：CEICより三菱総合研究所作成

## 2 PMI

注：直近月は製造業は5月、その他は4月  
出所：IHS Markitより三菱総合研究所作成

## 3 失業率

注：直近は5月24日の週  
出所：CMIEより三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 20年1-3月期のインド実質GDP成長率は前年同期比+3.1%と、下方修正となった前期同+4.1%から一段と減速した(図表1)。この結果、1-3月期までの19年度の成長率は前年比+4.2%と前年度の同+6.1%から低下し、08年度以来の低成長となった。
- 元々金融機関の融資が不良債権問題で目詰まりを起こしていることに新型コロナの影響が加わり、投資の落ち込みが深刻化している。需要項目別では、総固定資本形成が1-3月期前年同期比▲6.5%と三期連続のマイナスとなった。また、新型コロナによる世界経済停滞の影響から、輸出が1-3月期同▲8.5%と大幅減となり外需がマイナスに寄与した。
- 業種別GDPでは、製造業が1-3月期同▲1.4%と三期連続でのマイナスとなるなど、生産活動の停滞が深刻となっている。3月の鉱工業生産は前年同月比▲16.7%と低迷し、特に資本財生産が同▲35.6%と大きく落ち込んでいる。

## 基調判断と今後の流れ

- 新型コロナの感染拡大の影響は、4-6月期以降、本格的にインド経済を下押ししよう。インド政府は感染拡大の防止のため、3月25日より全土封鎖措置をとり、商業施設の営業や工場の操業など経済活動の大部分が停止した。政府は同措置を5月31日まで三度延長し、6月以降は段階的に解除する方針も、経済への下押しが長期化している。
- 元々厳しい環境下にある製造業は一段の低迷を余儀なくされる。5月の製造業PMIは30.8と急落した前月27.4から小幅改善するも、活動の拡大・縮小の境目の50を大きく下回る水準で推移している(図表2)。一方、サービスPMIは4月に7.2と大幅減となった。
- 全土封鎖措置を受けて、農村からの出稼ぎ労働者が大量に失職している。CMIEによると、インドの失業率は3月末に23%を一気に超え、足もと5月24日の週も24.3%となるなど労働市場が急速に悪化、失業増に伴う社会不安の高まりが懸念される(図表3)。
- インド政府は5月13日、中小企業支援や食糧支給、農業のインフラ整備、規制緩和などを中心とする20兆ルピー(GDP比10%)規模の経済対策を打ち出した。また、米企業が中国からの生産拠点の移転候補先としてインドに注目している点はポジティブな要素だ。
- しかし、これらの効果が現れるまでには時間を要する。全土封鎖措置による内需への影響は大きく、20年度の成長率は統計開始の52年以降四回目となるマイナス成長を見込む。